

条約の下での長期協力行動に関するワーキンググループ

第4回会合

於ポズナン、2008年12月1日から10日

暫定議題書2 (a)項

組織上の問題

議題書の採択

## 暫定議題書および注釈書

事務局長覚書\*

### I. 暫定議題

1. 会合の開会.
2. 組織上の問題:
  - (a) 議題書の採択
  - (b) 会合の作業計画
  - (c) 役員を選出
3. 現在の、2012年まで、そして2013年以降における長期協力行動により、条約の全面的、効果的、持続的な実施を可能にするため、特に次の点に対処する：
  - (a) 長期協力行動に関する共通認識
  - (b) 気候変動の緩和に関する国内外の行動推進
  - (c) 適応行動の推進
  - (d) 緩和行動および適応行動を支援する技術の開発と移転の実施強化
  - (e) 緩和行動および適応行動ならびに技術協力を支援する資金供与ならびに投資の行動強化
4. 2009年作業計画
5. 第14回締約国会議提出の進捗状況報告
6. その他の問題
7. 本会合の報告書

---

\* 本文書は最終版作成に予定より時間がかかったため、提出予定日を過ぎて提出された。

## II. 背景

1. 締約国会議(COP)は、決定書1/CP.13 (バリ行動計画) に則り、現在から2012年まで、さらには2013年以降における長期協力行動による条約の全面的、効果的、持続的な実施を可能にする総合プロセスを立ち上げ、その第15回会合における合意と決定書の採択を目指した。COPは、このプロセスを、条約の補助機関である条約の下での長期協力行動に関するアドホック・ワーキンググループ(AWG-LCA) の下で行うと決定、このAWG-LCAは、2009年までにその作業を完了し、作業成果をCOP第15回会合に提出してその採択を得るべきであると決定した。

2. AWG-LCAの第4回会合は、バリ行動計画に則り、COPの第14回会合ならびに京都議定書締約国会議の第4回会合、科学・技術上の助言に関する補助機関(SBSTA)および実施に関する補助機関(SBI)の第29回会合、京都議定書の下での附属書I締約国による更なる約束に関するアドホック・ワーキンググループ第6回再開会合と合わせ、12月1日月曜日に開会、12月10日まで開催される。<sup>1</sup>

## III. 暫定議題書の注釈

### 1. 会合の開会

3. AWG-LCAの第4回会合は、2008年12月1日月曜日、ポーランドのポズナン市、ポズナン・インターナショナル・フェアにおいて、議長の開会宣言により開会する。

### 2. 組織上の問題

(a) 議題書の採択

4. 本会合の暫定議題書が採択のため提出される。

FCCC/AWGLCA/2008/14 暫定議題書および注釈書。事務局長の覚書

<sup>1</sup> COP14および京都締約国会合第4回会合は、2008年12月1日から12日で開催される。

(b) 本会合の作業構成

5. 背景 : AWG-LCAはその第1回会合において、締約国会議第14回会合での合意と決定書の採択を可能にするためAWG-LCAの交渉に十分な時間を割けるような形で、AWG-LCA会合の作業を構成することで合意した。<sup>2</sup>

6. AWG-LCAの議長は、第4回会合のシナリオに関してその作業構成に注目する覚書を作成、その中で限られた会合時間を最も効果的に活用する方法を提案した。参加者は、作業構成に関する追加情報として、文書FCCC/AWGLCA/2008/15に示したシナリオ覚書を参照することが求められる。

7. AWG-LCAは、2008年12月1日月曜日午後の開会プレナリーで開会する。時間が限られていることから、議長は、各締約国に対し、主要グループの立場でのステートメント発表を求める。各代表は、口頭でのステートメント発表をできる限り短くするとともに、通訳者の作業を助けるため、あらかじめプリントされたコピーを会議担当者に渡すことが求められる。書面でのステートメント発表を行いたい参加者は全て、配布用のコピーを持参する必要がある。

8. AWG-LCAはその第1回会合において、ワークショップなどの活動を行うことで、バリ行動計画に記載された内容の理解を深め、明確化し、作業の推進に努めることで合意した。<sup>3</sup> これに則り、AWG-LCAは、事務局に対し、議長の指導の下、締約国と協議し、第4回会合で次の3つの主題に関するワークショップ開催を企画するよう要請した :

- (a) 長期協力行動に関する共通ビジョン
- (b) リスク管理とリスク削減戦略、これには、保険などリスクの移転と共有も含める
- (c) 現在の、新規の、そして革新的な技術の研究開発における協力、これにはウィンーウィン策も含める

9. 3つのワークショップは今回の会合期間前半において開催される。議長は、これらワークショップで取り上げられた意見を取りまとめ、AWG-LCAの今回会合のプレナリーで発表する。この取りまとめは、AWG-LCA第1回会合の結論に則り、今回会合の議長総括に組みこむ。

10. これら3つのワークショップは締約国の主導で行われる、このため締約国から

---

<sup>2</sup> FCCC/AWGLCA/2008/3, 24 項

<sup>3</sup> FCCC/AWGLCA/2008/3, 26 項

のインプットを中心として実質的な審議が行われる。全ての締約国は、相互の意見交換に向けそれぞれの見解を述べるとともに、バリ行動計画の規定を実行する具体的な方法について、それぞれのアイデアや提案を示すことが求められる。各締約国は、これらの提案に関し、簡単なしかし要を得たプレゼンテーションを行う（ただし10分以内とする、また必要な場合は5枚以下のスライドを用いることもできる）、あるいは簡単な意見陳述（3分以内）を行うことが求められる。提案のプレゼンテーションを希望する締約国は、議長が関連する主題のプレゼンテーションをまとめられるよう、あらかじめ事務局に連絡することが求められる。<sup>4</sup>

11. 各締約国は、上記8項に記載する3回のワークショップの計画などの組織上の問題を含め、AWG-LCAの予定の詳細ならびに最新の情報について、UNFCCCホームページ<sup>5</sup>に掲載される今回会合の概要を参照するとともに、会合期間中に発表されるプログラムの日報を確認することが求められる。

12. SBIはその第24回会合<sup>6</sup>において、通常午後6時までには会議を終了し、特別な場合は午後9時まで継続可能にすることを提案した。AWG-LCAの今回の会合も、これに沿って計画されることになる。

13. 行動：AWG-LCAは、今回の会合での作業構成方法に関して合意することが求められる。

FCCC/AWGLCA/2008/14 暫定議題書および注釈書。事務局長覚書

FCCC/AWGLCA/2008/15 第4回会合に関するシナリオ覚書。議長覚書

### (c) 役員を選出

14. 背景：COPは前回の第13回会合の最終会議において、適用可能な手順規則27項<sup>7</sup>に従い、COP決定書1/CP.13の5項に則り、Luiz Alberto Figueiredo Machado (ブラジル)をAWG-LCAの議長に選出、Michael Zammit Cutajar (マルタ)を副議長に選出した、ただしその役割を毎年交代することを条件とした。COP 13議長の要請に基づき、条約および京都議定書の下での組織の役員指名に関する協議が行われ、今後1年間は、Zammit Cutajarが議長、Figueiredo Machadoが副議長を務めることを確認し、今後1年間の報告官

<sup>4</sup> プレゼンテーションの発表を希望する締約国は、2008年12月1日より遅くならないできるだけ早期に、事務局 (lcaworkshops@unfccc.int) に連絡することが求められる。

<sup>5</sup> <[http://unfccc.int/meetings/cop\\_14/items/4481.php](http://unfccc.int/meetings/cop_14/items/4481.php)>.

<sup>6</sup> FCCC/SBI/2006/11, 102 項

<sup>7</sup> FCCC/CP/1996/2.

(Rapporteur) としてLilian Portillo (パラグアイ)を指名した。

15. AWG-LCAの現在の議長がCOP 14終了時まで引き続き議長の職務を続けられるよう、特にCOPのハイレベル・セグメントにおいてAWG-LCAの進捗報告を行うことができるよう、次の議長および副議長の選出は、COP第14回会合の最後の会議で行うことが提案された。
16. *行動* : AWG-LCAは、今後1年間、報告官を務めるものを選出することが求められる。
3. **現在の、2012年まで、そして2013年以降における長期協力行動により、条約の全面的、効果的、持続的な実施を可能にするため、特に次の点に対処する :**
- (a) 長期協力行動に関する共通認識
  - (b) 気候変動の緩和に関する国内外の行動推進
  - (c) 適応行動の推進
  - (d) 緩和行動および適応行動を支援する技術の開発と移転の実施強化
  - (e) 緩和行動および適応行動ならびに技術協力を支援する資金供与ならびに投資の行動強化
17. *背景* : AWG-LCAはその第1回会合において、会合期間中に締約国が発表した意見交換の内容を取りまとめることを議長に要請した。<sup>8</sup> 第3回会合での意見交換の議長取りまとめを文書FCCC/AWGLCA/2008/13に示す。
18. AWG-LCAはその第2回会合において、締約国に対し、バリ行動計画の1項に記載される5つの要素全てに関するAWG-LCAでの審議に向け、各国のアイデアおよび提案を提示し、適切な場合は、可能な限り、各要素間の相互関係ならびに各要素に関する個別の小項目を考慮に入れた上で、それぞれ文書での提案を行うよう求めた。<sup>9</sup> さらにAWG-LCAは、締約国に対し、2008年に開催予定のAWG-LCAワークショップの主題に関してもアイデアや提案を出すよう求めた。
19. AWG-LCAはその第3回会合において、議長に対し、バリ行動計画1項に記載される要素に関して締約国が提出したアイデアや提案を、認証された検証機関の提出するアイデアや提案にも配慮した上でとりまとめ、議長自身の責任で文書を作成するよう要

<sup>8</sup> FCCC/AWGLCA/2008/3, 22 項と 26 項

<sup>9</sup> FCCC/AWGLCA/2008/8, 25 項と 26 項

請した。<sup>10</sup> 議長はこの文書作成にあたり、バリ行動計画、ならびにAWG-LCAの第1回会合と第2回会合の結論書<sup>11</sup>に盛り込まれた要請に応じて2008年9月30日までに提出された文書、そして会合期間中ワークショップでのプレゼンテーションに基づき作業を行った。また議長は、2008年9月30日以降に受理した文書ならびに第4回会合期間中に提示されたアイデアや提案に基づき、第4回会合の終了までにこの文書の最新版を作成するよう求められた。<sup>12</sup>

20. AWG-LCAはその第2回会合において、事務局に対し、資金的に可能な限り、次の文書を作成し、AWG-LCA第4回会合での審議にかけるよう求めた：<sup>13</sup>

- (a) 農業部門における緩和の課題と機会に関するテクニカルペーパー
- (b) 革新的な保険ツールなど、途上国が気候変動の直接的な影響により資金面のリスクを受ける場合に利用できる管理メカニズムに関するテクニカルペーパー、これには最も脆弱な途上国、特に後発途上国、小島嶼後発途上国、アフリカ諸国などに特有の状況に対する配慮も含める、さらにこのテクニカルペーパーでは、保険、再保険、危険性の評価に関する技術専門家からのインプット集める適切なメカニズムの策定についても言及する。
- (c) 気候変動対応を目的とする投資ならびに資金の流れに関するテクニカルペーパーの更新<sup>14</sup>、ただしバリ行動計画1項に配慮する
- (d) 国連システムでの適応関連の活動に関する情報ノート

21. 文書FCCC/TP/2008/8、FCCC/TP/2008/9、FCCC/TP/2008/7、FCCC/AWGLCA/2008/INF.2はそれぞれ、第4回AWG-LCA会合に対するインプットである。

22. *行動*：AWG-LCAは、議長のとりまとめたアイデアと提案を探究し、これら当面の提案を明確にし、共通する要素を明らかにするとともに、合意に至るには、バリ行動計画の5つの要素それぞれに関して何を交渉する必要があるか、検討することが求められる。

<sup>10</sup> FCCC/AWGLCA/2008/12, 27 項

<sup>11</sup> 決定書 1/CP.13, 8 項、文書FCCC/AWGLCA/2008/3, 23 項、文書FCCC/AWGLCA/2008/8, 25 項および 26 項

<sup>12</sup> FCCC/AWGLCA/2008/15, 9 項

<sup>13</sup> FCCC/AWGLCA/2008/8, 28 項

<sup>14</sup> 気候変動に対応するための投資ならびに資金の流れ：[http://unfccc.int/files/cooperation\\_and\\_support/financial\\_mechanism/application/pdf/background\\_paper.pdf](http://unfccc.int/files/cooperation_and_support/financial_mechanism/application/pdf/background_paper.pdf)。

FCCC/AWGLCA/2008/13	条約の下での長期協力行動に関するアドホック・ワーキンググループ第3回会合において明らかにされた意見のとりまとめ。議長の覚書
FCCC/AWGLCA/2008/15	第4回会合のシナリオ。議長の覚書
FCCC/AWGLCA/2008/16	バリ行動計画1項に関するアイデアと提案。議長の覚書
FCCC/AWGLCA/2008/INF.2	国連システムにおける適応関連活動。事務局の覚書
FCCC/AWGLCA/2008/MISC.5	バリ行動計画1項に記載される要素に関するアイデアと提案。締約国提出文書
FCCC/AWGLCA/2008/MISC.6	バリ行動計画1項に記載される要素に関するアイデアと提案、政府間組織提出文書
FCCC/TP/2008/7	気候変動への対応を目的とする投資および資金の流れ：最新情報。テクニカルペーパー
FCCC/TP/2008/8	農業部門での緩和の課題と機会。テクニカルペーパー
FCCC/TP/2008/9	途上国における気候変動の直接的な影響から生じる資金面のリスクを管理するメカニズム。テクニカルペーパー

#### 4. 2009年作業計画

23. 背景：AWG-LCAはその第1回会合において、2009年作業計画の検討を、2008年の第2回会合から開始し、2008年の第4回会合より遅くならない形で終了することで合意した。<sup>15</sup>

24. AWG-LCAはその第2回会合において、2009年での4回の会合開催を確認した、条約の下での会議スケジュールに合わせ、第1回は3月／4月、2回目はSBSTAおよびSBIの第30回会合と合わせて6月に、3回目は8月／9月に、4回目はCOPの第15回会合と合わせて行うこととした。<sup>16</sup> AWG-LCAは、会議開催計画の目的からすると、2009年に追加の会合を開く必要があるかどうかの決定はCOP14以降に延ばすべきではないと指摘した。<sup>17</sup>

25. AWG-LCAはその第3回会合において、2009年での作業遂行方法を決定した。AWG-LCAは、2009年には全面的な交渉モードに転換することとし、これに基づき作業計画を策定、バリ行動計画の全ての要素に関する交渉を全面的にかつバランスのとれた

<sup>15</sup> FCCC/AWGLCA/2008/3, 25 項

<sup>16</sup> 2009年11月30日から12月11日。

<sup>17</sup> FCCC/AWGLCA/2008/8, 36 項

形で進めると決定した。<sup>18</sup>

26. 行動：AWG-LCAは、2009年の作業計画に関する審議を終了させ、2009年に追加の会合を予定する必要があるかどうか決定することが求められる。

## 5. 締約国会議第14回会合に対する進捗状況報告

27. 背景：COPはその第13回会合において、AWG-LCAに対し、COP第14回会合での進捗状況の報告を求めた。この報告は、12月11日木曜日のCOPハイレベル・セグメントの冒頭、議長からCOPに対し提出される。COPは、COP14において、当該グループの報告書に基づき、その進捗状況を確認することでも合意した。<sup>19</sup>

28. 行動：AWG-LCAは、COPに対する進捗状況報告を検討するよう求められる。

FCCC/AWGLCA/2008/3 2008年3月31日から4月4日、バンコクで開催された条約の下での長期協力行動に関するアドホック・ワーキンググループ第1回会合の報告書。

FCCC/AWGLCA/2008/6 条約の下での長期協力行動に関するアドホック・ワーキンググループ第1回会合において表明された、バリ行動計画7項に規定する2年間作業計画の策定に関する意見のとりまとめ。議長の覚書

FCCC/AWGLCA/2008/8 2008年6月2日から12日、ボンで開催された条約の下での長期協力行動に関するアドホック・ワーキンググループ第2回会合の報告書

FCCC/AWGLCA/2008/11 条約の下での長期協力行動に関するアドホック・ワーキンググループ第2回会合において表明された意見のとりまとめ。議長の覚書

FCCC/AWGLCA/2008/12 and Corr.1 2008年8月21日から27日、アクラで開催された条約の下での長期協力行動に関するアドホック・ワーキンググループ第3回会合の報告書

FCCC/AWGLCA/2008/13 条約の下での長期協力行動に関するアドホック・ワーキンググループ第3回会合で表明された意見のとりまとめ。議長の覚書

## 6. その他の問題

29. 本会合において提起されたこの他の問題は、全て本議題項目の下で審議される。

## 7. 今回会合の報告書

<sup>18</sup> FCCC/AWGLCA/2008/12, 33 項

<sup>19</sup> Decision 1/CP.13, 9–10 項



30. *背景* : 今回会合の作業に関する報告書草案は、本会合の最後に作成され、AWG-LCA第4回会合での採択を目指す。
  
31. *行動* : AWG-LCAは、この報告書草案を採択し、報告官に対して、会合終了後、議長の指導の下、事務局の支援を受けて仕上げる権限を委ねることが求められる。

## 附属書

条約の下での長期協力行動に関するアドホック・ワーキンググループ  
第4回会合向けに作成された文書

## 今回会合向けに作成された文書

FCCC/AWGLCA/2008/13	条約の下での長期協力行動に関するアドホック・ワーキンググループ第3回会合で表明された意見のとりまとめ。議長の覚書
FCCC/AWGLCA/2008/14	暫定議題書および注釈書。事務局長の覚書
FCCC/AWGLCA/2008/15	第4回会合のシナリオ。議長の覚書
FCCC/AWGLCA/2008/16	バリ行動計画1項に関するアイデアと提案。 議長の覚書
FCCC/AWGLCA/2008/INF.2	国連システムにおける適応関連活動。事務局の覚書
FCCC/AWGLCA/2008/MISC.5	バリ行動計画1項に記載される要素に関するアイデアと提案。締約国提出文書
FCCC/AWGLCA/2008/MISC.6	バリ行動計画1項に記載される要素に関するアイデアと提案、政府間組織提出文書
FCCC/TP/2008/7	気候変動への対応を目的とする投資および資金の流れ：最新情報。テクニカルペーパー
FCCC/TP/2008/8	農業部門での緩和の課題と機会。 テクニカルペーパー
FCCC/TP/2008/9	途上国における気候変動の直接的な影響から生じる資金面のリスクを管理するメカニズム。 テクニカルペーパー

## 会合前のその他の文書

FCCC/AWGLCA/2008/3	2008年3月31日から4月4日、バンコクで開催された条約の下での長期協力行動に関するアドホック・ワーキンググループ第1回会合の報告書
FCCC/AWGLCA/2008/6	条約の下での長期協力行動に関するアドホック・ワーキンググループ第1回会合において、バリ行動計画

- 7項に規定する2年間作業計画の策定に関し表明された意見のとりまとめ。議長の覚書
- FCCC/AWGLCA/2008/8 2008年6月2日から12日、ボンで開催された条約の下での長期協力行動に関するアドホック・ワーキンググループ第2回会合の報告書
- FCCC/AWGLCA/2008/11 条約の下での長期協力行動に関するアドホック・ワーキンググループ第2回会合において表明された意見のとりまとめ。議長の覚書
- FCCC/AWGLCA/2008/12 and Corr.1 2008年8月21日から27日、アクラで開催された条約の下での長期協力行動に関するアドホック・ワーキンググループ第3回会合の報告書